

Monthly Report

Vol.51 / 2010 Aug.

平成23年4月より「現代武道学科」が新設

～ 運動栄養学科収容定員増認可申請も受理～

本年6月、文部科学省に届出及び認可申請していた「現代武道学科の設置届出・収容定員増認可申請」と「運動栄養学科収容定員増認可申請」が8月末日で正式受理され、平成23年4月に開設する運びとなりました。現代武道学科は「平成24年度からの中学校武道教育の必修化に伴う道徳教育と安全教育のできる武道専門指導者の育成」、「日本の伝統と文化に立脚した武道修得を土台とした社会の安全・安心を確保する専門家の育成」を目標とした従来の武道系学科にはない、新しいコンセプトを持った学科です。

入学定員は30名(3年次編入学定員10名)で、運動栄養学科の収容定員増(入学定員60 80名)とあわせると、1学年の入学定員は500名となります。



詳細については随時、ホームページ等で紹介してきます。

現代武道学科のパンフレットはこちら(http://www.sendaidaijuku.jp/pdf/gbd_1.pdf)からご覧いただけます。

文部科学省HP <平成23年度からの私立大学等の収容定員の増加に係る学則変更予定一覧>

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/daigaku/toushin/_icsFiles/afieldfile/2010/08/20/1296722_2.pdf

文部科学省HP <平成23年度開設予定の大学の学部等の設置届出一覧(平成22年6月分)>

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/08/_icsFiles/afieldfile/2010/08/30/1297126_1_1.pdf

目次

現代武道学科設置認可	1
オープンキャンパス 1日学科体験会	2
生活習慣病予防運動教室 JOC認定看板	3
今年も2名が中国国費留学	4
タイからの留学生送別会	5
ドイツスポーツ少年団 フィンランド留学	6
国際スポーツ情報カンファ レンス	7
学生の活躍	9

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

2010年仙台大学オープンキャンパスを実施



8月8日(土)にオープンキャンパスを開催し、暑い中学生・保護者あわせて約1000名の方々にご来場を頂きました。暑い中ご来場下さった皆さま、有難うございました。

仙台大学ならではの各学科、特徴ある施設・設備を使った体験会や模擬講義、個別入試相談会などを実施しました。オープニングプログラムでは、卒業生3名から「OBからのメッセージ」と題した講演を行い、現在の職場での活躍や大学で培った経験が今に活かされていること、本学在学中のエピソードなどをお話頂きました。アテネオリンピック陸上競技4×400mリレーで4位入賞した佐藤光浩氏(平成14年3月卒、現富士通株式会社)からは、高校生へ向けたメッセージとして「他人と比較するのではなく、自分がどうすれば輝けるようになるかを常に考えて欲しい。自分が輝くことができる大学を是非、選択して下さい。」との話がありました。高校生達に大学生活や卒業後のイメージをして頂けたのではないかと思います。

教職員・補助学生の皆さまたいへんお疲れ様でした。

<当日行われた主なプログラム>

OBからのメッセージ

- ・佐藤光浩氏 - 富士通(株)元オリンピック選手
- ・清野隼氏 - 森永製菓(株)スポーツ栄養士
- ・櫻井直樹氏 - 白石市立小原中学校保健体育教諭

仙台大学とオリンピック・プロスポーツに関する展示会

ミニ講座「保健体育の先生の仕事」

進路紹介「スポーツ選手を支える仕事 - 体育大学からの進路」

新体操競技部演技披露

入試説明会/保護者対象ガイダンス

キャンパスツアー

アスレティックトレーニング体験

ボート体験

調理実習体験

ニュース・番組制作体験

ボブスレー・スケルトン体験

ニュースポーツ体験

運動栄養学科の学科一日体験会



8月1日(日)に運動栄養学科の学科一日体験会を開催し、生徒60名の方々に参加いただきました。学生による大学生活を紹介した後、スポーツ選手に栄養指導するときに使う「栄養指導用リーフレット」をつくったり、サプリメント(補助食品)についての講座を開いたり、運動栄養学科で学ぶ内容をじっくり体験していただきました。

平成22年度生活習慣病予防運動教室が開講



講生が本学に集まって行う講習会も月に1度開き、健康講座や普段の生活に取り入れやすい軽運動を紹介し、普段の生活を見直すよう指導しています。8月5日に開催した第2回講習会では「調理・食事指導」をテーマに、摂取カロリーを控える調理方法が紹介されました。受講生のサポートとして運動栄養学科の学生も加わり、実際に調理を行い食事もしました。カロリーを控えても味に遜色がないことで、受講生たちはこれからの調理を工夫していこうと意欲をわかせていました。

7月8日から柴田町主催で本学教員が講師を務める「生活習慣病予防運動教室」がはじまり、26名が受講しています。この教室は柴田町の健康診断で「骨粗鬆症」、「特定保健指導対象者」、「高血糖」の町民を対象に開催しているもので、期間は半年です。受講生は日々、歩数・体重・食事・睡眠時間・運動量などの生活習慣をノートに記録し、1ヶ月毎に講師に報告。講師からは次月に取組むべき課題が示されます。受

第1回（7月8日）	開講式・検査測定
第2回（8月5日）	調理・食事指導
第3回（9月2日）	健康講話・楽しい運動
第4回（10月7日）	健康講話・楽しい運動
第5回（11月4日）	検査測定
第6回（12月9日）	講評・閉講式

「JOC認定競技別(ボブスレー、スケルトン)強化センター」認定看板設置



本学は日本オリンピック委員会(JOC)から「JOC認定ボブスレー・リュージュ(ボブスレー、スケルトン)競技別強化センター」に認定され、認定看板がA棟入口に設置されました。これは、オリンピック強化指定選手等のトップアスリートが強化活動で有効に利用している施設を「JOC認定競技別強化センター」とし、各競技団体の選手強化を選手強化活動が円滑に行えるよう、JOCが施設活用を支援するものです。認定期間は2014年のソチ冬季オリンピック終了時までです。



今年も2名が中国国費留学へ

ばん かずあき いしはら もりたけ

本学卒業生の伴 和暁さん、石原 守剛さんの2名が中国国費留学として、それぞれ上海体育学院、瀋陽師範大学で学ぶために渡中しました。本学では平成20年度から中国国費留学生として毎年派遣し、今回の派遣で合計7名の学生を送り出しています。石原さんが留学する瀋陽師範大学への国費留学は今回が初めてです。

ばん かずあき

伴 和暁さん（留学先：上海体育学院）



中国が世界経済においてなくてはならない存在となった今、その最先端である上海という都市で、自分の可能性をさらに広げて成長したいと考え、今回留学することに決めました。言語をはじめ、中国という国の歴史やあり方、そして、今後の日本がスポーツや経済において、どのように中国や世界と関わっていけば良いかということ、自分で感じてきたいと思っています。

いしはら もりたけ

石原 守剛さん（留学先：瀋陽師範大学）

馬場准教授提供



中国語を学べるチャンスだと思いました。中国は市場も増えているので、これまで観たことのない世界での生活が楽しみです。私の行く瀋陽は、歴史的にも重要な拠点となった場所なので、それらを含め、日本と中国の違いを重点的に学んできたいと思います。

また、留学中の日野さん、金井さん、安部さんが一時帰国し、大学へ挨拶に訪れました。

ひの こうき

日野晃希さん

修論は仙台大学大学院でのテーマとは別の内容で日中比較をしたいと考え、既に取り掛かっています。残り1年しかないので、中国国内を旅行して見聞を広め、充実した生活にしたいと考えています。今年には東北師範大学への国費



手土産の兵馬俑

留学生がいないと聞き、大変残念です。日本や欧米と比較して高水準とは言えないものの、図書館は中国全土でもトップクラスの書籍を有しているため、個人の意識次第で自分を高める事は十分に可能です。来年は東北師範大学に後輩が入ることを期待します。

かない ひろのぶ

金井弘順さん

中国語はほぼマスターできたので、これから英語にも挑戦したいと考えています。今は留学生向けコースの「中国語コース」を専攻中ですが、中国人と接する機会を増やしたく、中国人向けの「国際貿易コース」に変更するために東北師範大学に相談したいと考えています。同じ国費留学中の仙台大学の先輩2人に、お世話になりつつ楽しく過ごしていますが、残り2年しかないので「語学力を伸ばすこと」、「中国の見聞を拓げること」、「アクティブに生活すること」を目標に掲げて生活していきたいと思っています。

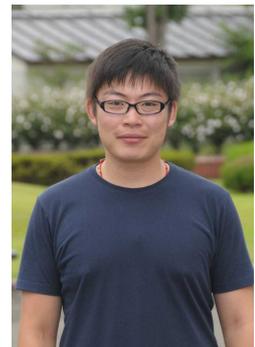


あべ こうたろう

安部浩太郎さん

子供の体力について研究を進めて行きたいと考えています。1年間は笹井さんと一緒に在中している日本人の子供に対して運動指導をさせて頂いており、指導法や体力について学ぶ良い機会となっています。

上海体育学院は太極拳などの武術で有名な大学で、私も興味がある分野なので、積極的に学んで行きたいと考えています。中国語については、聞き取ることは大体マスターしましたが、相手に自分の気持ちを上手に伝えることができていないので、今後の課題です。中国語検定であるHSKで高級を取得する事も現在の目標の一つです。



タイ国シーナカリンウィロート大学から科目等履修で留学したカニッターさん送別会



今年4月から科目等履修生として本学と国際交流提携大学であるタイ国シーナカリンウィロート大学から留学していたカニッターさんが、前期授業の科目履修を無事修了し、帰国する運びとなりました。8月26日(木)には国際交流会館(仮称)においてカニッターさんの送別会が開催され、朴澤学長はじめ留学生担当部署の教職員や臨時職員、留学生が参加し、5ヶ月間過ごした仙台大学での思い出等を語り合いました。台湾から留学している曾 鈺倫さんからは、「これからも頑張ってるね。」との言葉がかけられるなど留学生同士でも良い関係が構築されているようでした。カニッターさんは日本語にかかわる仕事に就くことを目指しています。微笑の国からの留学生らしく笑顔の絶えないとてもキュートなカニッターさんですので、仙台大学で過ごした経験を活かし今後ますますの活躍が期待されることでしょう。

カニッターさん

仙台大学では7つの科目を履修し、空きコマには日本語を教えていただきました。おかげで会話に困らない程度まで、日本語を使えるようになりました。日本で生活するうえで、一番嬉しかった事は仙台大学の留学生支援体制の充実です。留学生寮や食事も学生食堂を安価で提供していただきたいへん助かりました。同時期にシーナカリンウィロート大学の同級生が東京・大阪・山口などの大学に留学していたのですが、仙台大学ほどのサポートはなく、皆から羨ましがられました。学業面でも、先生方が時間を割いて、私が理解できるまで優しく指導してくれたことに感激しました。仙台大学にもっともっと長期で滞在したいので名残惜しいです。将来は通訳や日本語教師など、日本語を使う職業に就きたいと思っているので、仙台大学で学び経験したことを大きな糧として、今後も日本語の勉強を続けていきたいと思っております。ありがとうございました。



写真提供: 学生支援センター林臨時職員

カニッターさん直筆のメッセージ



私は、半年間仙台大学で世話になりました。私にとって、仙台大学は私の一つの家みたいなところ、みんなは私の家族のような感じがします。日本では毎日が充実し、先生方が友達、留学生と出会い、楽しく日本での生活を送る事ができました。

半年間と言う短い期間でしたが、学長先生のおかげでとてもいい経験ができました。タイに帰っても仙台大学での思い出は絶対に忘れません。本当にありがとうございました。カニッター ガンカム

ドイツスポーツ少年団が来訪



8月9日(月)にドイツスポーツユース9名が「日独スポーツ少年団同時交流事業」の一環として本学を訪れ、約2時間の滞在中に学生同士のディスカッションや、軽スポーツ、施設見学等を行いました。ディスカッションではドイツ側の学生と本学学生13名とが、「私たちにできる社会貢献(これまでとこれから)～スポーツ・文化活動を通して～」をテーマに討議し、日独の「スポーツ環境の違い」、「スポーツコーチになるためのシステムの違い」、「スポーツコーチと子ども達の関係」などについて大変有意義な意見交換がなされました。

今回の本学への訪問は、受入れを担当した仙南スポーツ少年団連絡協議会から「少年団が同年代の学生であること」と、「スポーツという共通点があること」から申し出を頂いたものです。ドイツを含む諸外国との交流関係を推進している本学としても、学生にとっても素晴らしい交流となりました。

み としゅうじ ディスカッションに参加した水戸秀二さん (体育学科4年)



「日本ではスポーツ指導者と受ける側が師弟関係にあり、指導者が上の立場であることが多いように感じています。一方、ドイツではコーチと子供たちが対等関係にあり、友好的に指導されると聞きました。また、日本では小・中・高と、一つの競技にしぼって習うことが一般的であるのに対して、ドイツでは複数競技を同時期に習い、15歳ぐらいから一つの種目にしぼっていくということでした。複数の競技を同時期に経験することは、他競技との共通点・相違点を知るができ、スポーツの奥深さや楽しさ、自分に合った競技探しにつながるのではたいへん良い事であると思いました。ドイツのスポーツに関する考え方に共感できる点が多く、スポーツコーチを目指すうえで大変参考となりました。」

フィンランドのカヤーニ応用科学大学へ短期留学・長期留学



ごうの しげる

郷野 茂さん(体育学科1年)がフィンランド短期留学プログラムで、8月24日～9月21日の日程で、カヤーニ応用科学大学で学んでいます。写真は体育学科長のカトリさんのご自宅で撮られたもので、高橋まゆみ准教授よりご提供いた

きました。同大学には、高橋悠さん(スポ情3年)が8月31日～2011年5月27日の期間、長期留学することにもなっています。異国の地で多くのことを学んで成長した2人に会う日が楽しみです。

たかはしゆう



第3回国際スポーツ情報カンファレンス、開幕

<スポーツ情報マスメディア研究所より>

仙台大学主催・東北放送（株）共催の第3回国際スポーツ情報カンファレンスが8月27～29日の3日間、仙台大学とエル・パーク仙台を会場に行われました。「トップスポーツの今を解く」をメインテーマに、のべ180人を超える全国のスポーツ関係者や学生が参加。日本のトップスポーツを率いる著名な講師陣のもと、参加者たちは新たな視点でたがいのスポーツ観を語りあっていました。主管となったスポーツ情報マスメディア研究所（ISIM）の勝田隆所長は「トップスポーツにはdecide（決断）と

responsibility（責任）が求められる。厳しい環境を乗り越えてきた者は本物の厳しさを与えることができる」と語り、今を生きる私たちはどんなスポーツの価値を未来につなげられるか、一人一人に託されていると伝えました。

なお、ISIMでは、このカンファレンス開催にあわせ『ISIM Journal スポーツを「ジャーナルする力」』を発刊しております。興味のある方は、ぜひISIMまでお問い合わせください。（内線：657）



2日目の会場となったエル・パーク仙台（仙台市青葉区）



ラグビー元日本代表監督
平尾誠二氏



勝田ISIM所長と日本アンチ・ドピング機構会長 河野一郎氏



オリンピック招致のレガシーを引き継ぐ学生シンポジウムも開催。次回会場の筑波大学 大林太郎さんと朴澤学長

「第4回スポーツを考える会」開催

<スポーツ情報マスメディア研究所より>



スポーツ情報マスメディア研究所は2010年7月29日（木）、仙台市青葉区川平にある研究所分室において「スポーツを考える会」を実施しました。今回で4回目を迎えるこの勉強会には、平日の昼間にもかかわらず20名が参加。県内のマスメディアや自治体、スポーツ関係者などが集まり、貴重な意見交換を行いました。

まず、本学のマーティ・キーナート副学長が

ら歓迎の挨拶が行われたあと、研究所の勝田隆所長より、先日、文部科学省から示された『スポーツ立国戦略（案）』や8月14日からシンガポールで始まる初のユースオリンピック競技大会（14歳以上18歳以下）について情報提供がなされました。続いて、スペシャルオリンピックス日本・宮城（知的障がい者の自立支援を行うボランティア組織）の佐藤田鶴子氏から、競技レベルに応じて誰もがスポーツを楽しめるユニークなシステムが紹介されました。参加者からは、「さまざまなスポーツの形をみた」「新たな刺激をもらった」という声が寄せられました。会場には、車いすバスケットボール日本代表でキャプテンを務める藤井新悟選手（宮城MAX）の姿もあり、障がい者スポーツを支える指導者の重要性を訴えていました。次回は、年末の開催を予定しています。

運動栄養学科の卒業生3名が管理栄養士国家試験に合格

前号でも紹介しましたが、第24回管理栄養士国家試験に本学卒業生3名が見事合格しました。前回号で紹介できなかった2名を紹介します。

私はこうして合格した!!

「平成22年度管理栄養士国家試験」に合格した卒業生、 高野絵里さん・奥友 薫さんにインタビュー



(株)エアーライト

たかの えり

高野絵里さん(25)



仙台市立生出小学校
学校栄養職員

おくとも かおる

奥友 薫さん(24)



管理栄養士を取得したい後輩へ、自分が勧める勉強方法を3つ挙げるなら？

- 1、大切な仲間を作る(社会人になっても大きな励みになります)
- 2、管理栄養士の問題集を解いてみる(講義でやる部分は限られているので、まだ習っていないでも勉強できます)
- 3、運動栄養サポート研究会(栄養や食に関することで興味のあることが見つかるのでは？それだけで意欲アップ！)

勉強方法に関して言えることは、復習が何より大切です。私の場合、どんな問題でもできなかったところは何度も復習しました。1冊の問題集を4回はやったでしょうか…。12月頃から2月にかけて模擬試験も4回ほど受験しました。復習することで自分の弱点も見えてきます。

勉強時間はどのタイミングでとりましたか？

平日、1日40分の時は午後6時から行き、2時間に増やしたときは午後8時から10時まで。休日は自分のタイミングで、あまり時間にとられずに行っていました。

今後の夢や目標があればお聞かせください

今後は、いつか大学院に行って食をとりまく環境や文化について、生活科学、家政学を勉強してみたいです。それまでもう少し、いろいろな現場で管理栄養士としての経験値を広げていきたいと思いません。

最後に一言！

本試験まで模擬試験を4回受けましたが、一度も合格点(120点)に達したことはありませんでした。正直不安もありましたが、その時に初めて毎日積み重ねてきた1年半という年月が私の大きな自信となりました。勉強だけでなく、仕事もこなしてきたんだという自信です。勉強しなければいけないという1年間の実務経験の中で、辛い時間もたくさんあると思いますが、決して諦めることなく、最後まで自分を信じて頑張ってください。

合格できた理由は何だと思いますか？

丹野先生が受験を勧めて下さったこと、早川先生が卒業生に対して配慮して下さいましたこと、同期に色々協力してもらったこと、両親や職場の先輩の理解があったことです。

勉強時間はどのタイミングでとりましたか？

平日の仕事後はアカデミーやスタバ、ジャスコで4時間を、休日はアカデミーや宮城県図書館で8時間を目標に勉強しました。

管理栄養士を取得したい後輩へ、自分が勧める勉強方法を3つ挙げるなら？

- 1、今から過去問を解く
- 2、実習や栄養サポートでの実践で培われる知識を確実に身につける
- 3、気力&体力をつける

「栄養士」から「管理栄養士」になって、一番変わった点は？

仕事に対する意識が変わりました。給与も若干、上がるようです。

今後の夢や目標があればお聞かせください

次は、知識を行動に移すこと。まだまだ勉強をし続けて、多くの人の出会いの中で自分の力を発揮したいです。

最後に一言！

仙台大卒の管理栄養士が1人でも多く誕生し、活躍できることを祈っています。私も、仙台大卒の管理栄養士として活躍できるように頑張ります！

体操競技部が創部初の団体戦インカレ準優勝



8月21、22日に秋田県立体育館で開催された「第64回全日本学生体操競技選手権大会（インカレ）」において、本学男子体操競技部は団体で過去最高成績となる2位となりました。個人総合でも亀山耕平（体育学科4年）が、種目別あん馬で1位記録（15.450）を出すなどして3位入賞しました。

なお、今大会はU-21強化選手選考も兼ねており、2日間の合計点で上位12位（4年生を除く）に入った宗像 陸（体育学科3年）、富澤祐太（体育学科2年）、佐藤 亘（体育学科3年）、石原 大（体育学科3年）の4名が権利を獲得しました。

男子団体総合

第2位（433.950）

男子個人総合（入賞者）

第3位 亀山耕平（87.000）

第7位 宗像 陸（86.350）

第8位 富澤祐太（86.300）

種目別

<あん馬>

第1位 亀山耕平（15.450）

第8位 佐藤 亘（14.350）

<つり輪>

第3位 佐藤 亘（14.850）

第5位 宗像 陸（14.450）

第7位 早瀬幸樹（14.400）

<ゆか>

第7位 宗像 陸（14.950）

<跳馬>

第2位 山本収一（13.700）

<平行棒>

第6位 富澤祐太（14.300）

第8位 宗像 陸（14.150）

<鉄棒>

第4位 富澤祐太（14.700）

第6位 石原 大（14.450）

柴田ボート協会の声援を受けて漕艇部がインカレで男女ともに表彰台



8月19日 22日の4日間、埼玉県戸田漕艇場を会場に第37回全日本大学選手権大会（インカレ）が開催され、本学漕艇部は男子が「エイト」と「舵手なしフォア」の2種目で第2位に、女子が「ダブルスカル」と「舵手なしペア」で第3位となりました。

ボートの花形種目である男子エイトでは、3年連

続の準優勝で優勝こそ逃したものの、本学と優勝校である日本大学の2校がこれまでのコースレコードを上回る記録を出し、社会人チームのタイムを凌ぐ、たいへん高レベルのレースとなりました。

ライバル校として互いに切磋琢磨し、日本ボート界のレベルを引き上げている学生の活躍にこれからも応援ください。

また、今年も柴田ボート協会ご一行約40名が大会に足を運んでくださり、温かい声援で選手を後押ししていただきました。



写真提供：菊地担当課長(事業戦略室)

夢を追って渡米した色川冬馬さんが帰国



メジャーリーガーになることを夢見て5月に渡米し、カリフォルニア州で行われるサマーリーグに参加していた色川冬馬さん（体育学科3年）が帰国し、一回り大きく成長した姿を見せてくれました。

結果としては、色川さんが目指していた「他球団からの誘い」はなかったのですが、本人は真剣に野球に打ち込み、野球以外のことでもたくさんのお話を学ぶ事ができた3ヶ月を過ごしたようです。野球への情熱は今まで以上に大きくなったようで、今後も夢に向かって努力を重ねていくそうです。

明成高校インターハイで大躍進

明成高生が沖縄で行われた平成22年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）で大躍進しました。佐藤久夫准教授率いる男子バスケットボール部の準優勝をはじめ、女子バスケットボール部も全国大会で最高成績となる第3位になりました。最近、力をつけてきている陸上競技部でも男子5000mで8位入賞を果たすなど、今後の活躍に期待が持てる素晴らしい成績を残しました。

競技結果の詳細は右の通りです。



男子バスケ部		【第2位】
決勝	6 6 vs 6 7	八王子（東京）
準決勝	7 0 vs 6 7	京北（東京）
準々決勝	8 4 vs 5 3	市立船橋（千葉）
女子バスケ部		【第3位】
準決勝	6 5 vs 7 2	中村学園（福岡）
準々決勝	8 3 vs 7 4	精華女子（福岡）
3回戦	9 2 vs 7 9	富士学苑（山梨）
体操部		
男子団体総合	【第14位】	
男子個人総合	【第50位】	仰 郁人
女子個人総合	【第42位】	大友さつき
陸上競技部		
男子5000m	【第8位】	村山 謙太

仙台大学同窓会東海支部総会が開催される



写真提供：松下邦雄さん(1回生)提供

8月21日(土)に仙台大学同窓会東海支部(愛知・岐阜・三重・静岡)総会が名古屋市で開催され、同窓生23名もの方々が集結しました。今回で節目の10回目の開催です。本学からも朴澤学長と渡辺入試担当課長が出席し、情報交換するなどして交流を深めました。

東海支部の支部長は、今年3月に本学園の評議員に就任された松下邦雄さんが務めています。

なお、仙台大学同窓会のホームページがリニューアルし、同窓生の住所変更等の受付や各支部の活動紹介などを行っています。是非、ご覧下さい。 <http://www.sendai-aa.jp/>